



豊かな時刻を

「挑戦」「創造」「貢献」「誇り」

中沢中学校 学校だより
令和8年度 第2号
令和7年5月26日

高校生の学ぶ姿から思うこと

校長 山田 裕康

1学期も2ヶ月がすぎ、折り返し地点を迎えました。生徒たちは日々、授業、委員会活動、部活動などにそれぞれの目標を持ちながら取り組んでいます。学校では授業の時間が一番長く、5時間か6時間の学習をしていることは周知のとおりですが、得手、不得手はあっても授業の時間を充実したものにするのが、学校生活を楽しいものにするもっとも大切なことであると思います。改めて「学ぶこと」について考えさせられたのは、5月14日に相模原城山高校での学校運営協議会に招かれたことがきっかけです。

今年度の学校経営計画などの説明を受けたあと、授業の見学をしました。相模原城山高校は単位制普通科の高校です。単位制とは、学年ごとではなく、3年間で卒業に必要な定められた単位(例:50分授業を1年間受けると1単位など)を修得する学習の形です。確実な学力を育む基礎学習と個性を伸ばす多彩な選択科目によって構成され、生徒一人ひとりのさまざまな興味関心に合わせた学習ができるのです。授業の進め方は中学校と大きな違いはありませんでしたが、真剣に授業を受けている高校生たちを見ながら、本校の中学生が高校に進学を希望するならば、どのような心構えを持たせればよいか、ということを考え始めました。義務教育は中学校までであり、卒業後に高校などの上級学校で学習を続けていくかは、個人の意志に委ねられるのです。学校でなくとも、自分が生きていく場を主体的に選ばなくてはならない、ということです。中学校では、どちらかといえば生徒は与えられた課題に対し取り組むことが多いのですが、高校で学ぶ際には、「何のために」を常に考え、自分にどんな力をつけ、将来のやりたいこと、そのための進学のために必要なことを学び取ることが一層大切なのです。

これからも、学ぶことの意味、そして将来への道を考えさえながら、キャリア教育を推進していこうという思いを新たにしました。



令和8年度生徒総会を開催しました

5月22日に生徒総会が開催されました。生徒会本部役員が中心となって運営をし、今年度の活動方針や、各委員会からの活動計画が提案されました。積極的に質問や意見が出され、有意義な総会となりました。自治とは自分たちの力で自分たちの学校生活をよりよく、そして誰もが楽しいと思える学校づくりをすることです。中沢中の生徒たちは、いろいろなことを模索しながら、それを実践しています。一人ひとりが活躍できる生徒会活動を期待しています。

